

【台湾】

11-12月の市場動向トピックス

- 2020年11月の訪日台湾人数は、前年同月比99.7%減の1,200人であった。
- 2020年12月の訪日台湾人数は、前年同月比99.7%減の1,000人であった。
- 11・12月も、新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪日者数は前年同月を大幅に下回った。11月1日から上陸拒否及び上陸時のPCR検査受診対象指定が解除されたものの、日本政府による14日間の隔離等、査証免除措置の停止の対象となっている。なお、国際的な人の往来再開に向けた段階的措置として、9月8日から「レジデンストラック」が運用されている。

11-12月の主なプロモーション活動

- 11月9日に北海道、11月30日に山陰山陽、12月11日に東北の魅力を伝えるための特設サイト及び動画を公開した。動画は日本人タレントを起用したものや、リモートで台湾人タレントが参加したものなど、コロナ禍ならではのものとなっており、いずれも将来の訪日意欲を掻き立てる内容となっている。また、11月7日台北、11月28～29日台北、12月12日高雄、12月19日台中において上記動画を用いて消費者に対して日本の魅力を伝えるためイベントに出展した。



(北海道キャンペーン特設サイト)



(11/7 台北イベント出展)

- 12月18日～21日に開催された高雄市旅行公会国際旅展(KTF)に、VJブースを出展した。ブース内では、全国から募集したパンフレットの配布や自治体等によるステージPRのほか、「安心安全」の取り組みや、アフターコロナを意識したアウトドアアクティビティの魅力を中心にPRを実施した。来場者からは、いつ頃訪日できるかという質問が多く、アンケート結果では「日台往来再開後半年以内に訪日したい」割合が半数以上と、コロナ前と変わらない高い訪日意欲が伺えた。



(VJブース内の様子)



(ステージPRの様子)